

2018-19年度ライオン誌日本語版委員会 第9回会議 報告書

日 時：2019年3月6日(水) 13:30～16:00

場 所：一般社団法人 日本ライオンズ 事務所

出席者：国際理事 安澤 莊一 (福島県・白河小峰ライオンズクラブ)
委員長 矢野 敏明 (336複合地区／島根県・松江葵ライオンズクラブ)
編集長 稲岡 敬弘 (332複合地区／秋田ライオンズクラブ) ※オンライン
委員 渡辺 和廣 (330複合地区／山梨県・甲府シティ ライオンズクラブ)
委員 渡辺 修 (331複合地区／北海道・美唄ライオンズクラブ)
委員 渡邊 信也 (333複合地区／新潟県・亀田ライオンズクラブ)
委員 西川 恒彦 (334複合地区／静岡県・富士宮ライオンズクラブ)
委員 神 崎 守 (335複合地区／京都やわたライオンズクラブ)
委員 椿 幸 雄 (337複合地区／熊本火の国ライオンズクラブ)
一般社団法人専務理事 高橋 克文 (千葉県・船橋翼ライオンズクラブ)
ITアドバイザー 莊 英 隆 (東京恵比寿ライオンズクラブ)
ITアドバイザー 小柴 登司 (沖縄県・浦添ウエスト ライオンズクラブ) ※オンライン
欠席者：国際理事 佐藤 義雄 (長野県・戸倉上山田ライオンズクラブ)
ITアドバイザー 辰巳 博昭 (兵庫県・神戸須磨ライオンズクラブ)



矢野委員長の開会あいさつに続いて、安澤国際理事から韓国ライオンズ60周年記念式典と広島フォーラム・ステアリング委員会の報告、日本ライオンズ高橋専務理事からライオン誌に関わる一般社団法人での検討事項についての説明、及び矢野委員長から一般社団法人総務委員会の報告があり、その後、矢野委員長の進行で議事に入った。

【議事】

1. ライオン誌日本語版の運営 (別紙-月次決算報告)

2019年1月度の収支計算書を元に会計担当者から説明があった。まず上半期監査を経て吉田会計顧問から、収支計算書の中で「その他収入」の「頒布品収支差額」として計上していたものを、下期から収入の部に「頒布品収入」、支出の部に「頒布品原価・送料他」として計上するよう指導があり、1月度計算書から変更していることが報告された。その上で1月度の決算報告があり、この月は印刷版の発行がなかったことから約394万円の黒字となり、累計では6,063,129円の収支差額が出ていることが説明された。※一般社団法人理事会旅費や借室料など、年度末精算の予算額を差し引いた収支は約500万円の黒字。

2. 本誌関係

●2019年3・4月号 (2019年2月20日発行／92,000部) 出来

3・4月号の出来について検討した。331複合地区の渡辺委員から特集「小さな町のライオンズ」の反響が大きかったこと、地方でがんばっているクラブを取り上げることで当該クラブの励みや周辺クラブへの刺激になることが話された。

●2019年5・6月号（2019年4月20日発行）台割案

特集は「アラート・プログラム」（神崎提案）で、2月3日に335複合地区の主催で開かれた全国アラート・フォーラムの内容を中心に記事をまとめ、前回会議で提案者の神崎委員から指摘があったように、全国レベルでのフォーラムの継続や災害時に即座に使えるアラート基金の設定など具体的な提言も含めた記事にする。表紙は前回会議の決定に従い、これまで取材した災害支援現場の写真やアラートに関連するイメージ写真を使ったデザイン案が4点提出され、委員の投票でライオンズの災害支援現場の写真に決定した。この号に広島フォーラムの展望記事を掲載することとし、矢野委員長がフォーラム組織委員会の寺越慎一委員長にインタビューを行う。インフォメーションには国際平和ポスター・コンテスト大賞受賞作、第1副地区ガバナー／地区ガバナーエレクト・セミナー、広島フォーラム・ステアリング委員会、ライオンズクエスト・フォーラム全国大会の記事などを入れる。熊本地震に対するLCIF交付金事業のうち最終かつ最大の事業である益城町学校給食センターに関し、椿委員から3月2日に竣工式が行われ、4月10日から本格稼働することが説明された。稼働日の4月10日は本誌5・6月号のネーム校了日は過ぎているが、最終の色校前であり、次の7・8月号では時間が経ちすぎてしまうこと、また既に竣工し一部学校では給食の配食も行われたことから、この号にLCIF交付金による復興事業報告として掲載し、詳しい記事は一連の事業を取材した上でウェブマガジン「テーマ」で扱う。また本部からの配信があれば、LCIF年次報告を掲載する。「国際理事だより：佐藤義雄国際理事」、「編集室：椿幸雄委員」。

●2019年7・8月号特集「私の考えるライオンズクラブ(仮)」企画案

本誌で募集をかけた同テーマの全応募作を基に企画案の検討に入った。内容的にいくつか分類出来ることから、各委員が今月25日までにそれぞれの分類項目ないし個別の応募作についての所感を提出し、それを基に次回委員会で具体的な企画案や掲載方法を決定する。

3. ウェブマガジン関係

●2019年3月号（3月1日更新）出来

3月1日更新のウェブマガジン3月号の出来を確認した。

●2019年4月号以降台割案

4月号から6月号の主要コンテンツについて、内容と取材経費が提出され、承認された。

4. 主要記事予定

●2018-19年度主要記事予定

現在まで決まっている主要記事予定を確認した。まだ決まっていなかった本誌7・8月号編集室の執筆は335複合地区の神崎委員の担当とする。

●2019年2月取材経費

2月に実施した取材の旅費及び外注費の経費一覧が提出され、確認をした。

●2019年3～2019年4月取材経費概算

3月から4月（一部5月）にかけての取材経費概算が提出され、取材日が決まっていない等、予定が確定していない3件を除き取材を承認した。

5. ライオン誌日本語版の方向性

第7回会議、第8回会議と続けて審議をしてきたが、その中でも指摘があった「人口減少→会員数減少→会費収入減少」という流れの中でのライオン誌発行に関し、矢野委員長と稲岡編集長が出席した日本ライオンズ総務委員会との会合でも懸念が表明された。そこで、一つの考え方として、写真撮影や文章制作に精通した会員に依頼し、取材費を抑制する方法を検

討してもいいのではないかと案が提示された。これに対し各委員からは、そうしたシステムを構築するアイデアはいいが、具体的な人材がいるか、またタイムリーに取材し記事を作成出来るか、更には現実問題として複合地区や地区の協力を求めざるを得ず、日本ライオンズの経費は減っても複合地区、地区の経費が増えることになり、理解が得られないのではないか、などの指摘があった。稲岡編集長からは、前日に開催された332複合地区ガバナー協議会において複合地区内6準地区の機関誌編集担当者の会合を持つ方向で調整を始めたが、これを全国に広げ、まずはそこからスタートしてみてもどうかとの提案があった。

* 第7回会議検討事項

- ライオン誌公式版に関しては、国際理事会方針書に明確な規定がある。目的は「国際協会の方針及び活動に関して参考になる情報を個々のライオンズに伝えること」「優れた奉仕をするよう会員を意欲づけること」「協会プログラムを非ライオンズに示すこと」であり、基本的に現行のウェブマガジン及び本誌はそれに沿って編集している。また、これに加えて日本ライオンズとしての動きや情報をウェブマガジンのニュースと本誌インフォメーションで伝えているが、現在、メインの媒体と位置づけているウェブマガジンの閲覧数が少なく、日本ライオンズの活動が一般の会員まで浸透していないのが現状であり、ライオン誌をいかに活用してもらうかが最大の課題。
- 委員会構成や経費、剰余金についても国際理事会方針書に規定されており、それを逸脱することは出来ない。一方、ライオン誌日本語版委員会も一般社団法人日本ライオンズの一委員会であり、今後、その位置付けの中で日本ライオンズと調整しながら、理事会方針との整合性を図っていくことが重要。
- 日本は人口減少社会となり、ライオンズクラブにおいても会員減少になかなか歯止めがかからない状態となっている。ライオン誌委員会としては与えられた収入の中で最良のものを作っていくことが使命だが、10年後、20年後の収入減まで見据えて検討することも必要ではないか。
- ライオン誌は将来的に、国際本部の方針に従って完全ペーパーレスになることが予想される。その中でウェブマガジンは、一般社団法人日本ライオンズが計画しているホームページと共に、日本のライオンズクラブにとって有効な媒体となるよう、日本ライオンズ理事会と連携してコンテンツのすり合わせを行うことが必要。

* 第8回会議検討事項

- 人口減少→会員数減少→会費収入減少という流れが続く中で、ライオン誌はどうか。
 - 1) 会費を増額しても印刷版を維持すべきであり、そのためには読んでもらう努力が必須。毎月何らかの情報を発信する手段としてウェブマガジンも重要
 - 2) 本部の方針に従って粛々と与えられた中で情報発信をすればいい。要は国際理事会方針書の通りに運営していけばいい
 - 3) 将来的な方向としてウェブに進むのは致し方ないが、それでも印刷版は捨てきれない。ただ、収入が減ったら、本部方針の最低ラインである年4回発行まで削減したりページ数を減らして対応するのも止むを得ない
 - 4) 収入減に対し、委員自らが取材や編集に当たって経費を削減するという意見もあるが、クオリティーを保ちながらそれを実現するのは無理。またウェブ会議の活用という話もあるが、現在のシステムでは無理があり時間の無駄になるだけ

- 前回の会議でも多くの委員が論じていたように、ライオン誌に関しては国際理事会方針書にさまざまなことが規定されており、それを逸脱することは出来ない。その中で、理事会方針との整合性を図りながら、一般社団法人日本ライオンズの一委員会としての位置付けをどうするのが重要。
- 現状、読者はまだまだウェブより印刷の方を重視している。またネットに接続する習慣のない人も多い。ライオン誌は情報発信のツールであり、読まれなければ意味がない。ウェブを認知してもらうことが何より重要。

6. その他

- 国際協会がシカゴの印刷会社PRドネリーに委託し開発したライオン誌専用アプリの名称がこちらの指摘通り修正されたことから、アプリの活用を推進すると共に、本部のデジタル公式版に入れる記事を、これまでの本誌の一部記事からウェブマガジンの記事に変更することが提案された。次回会議で更に検討し、ウェブマガジンの記事に変更する場合は変更時期を確定させる。

閉会あいさつ 矢野敏明委員長

【次回以降委員会開催予定】

4月8日(月)	13:30~16:00	第10回会議	日本ライオンズ事務所
5月9日(木)	13:30~16:00	第11回会議	日本ライオンズ事務所